

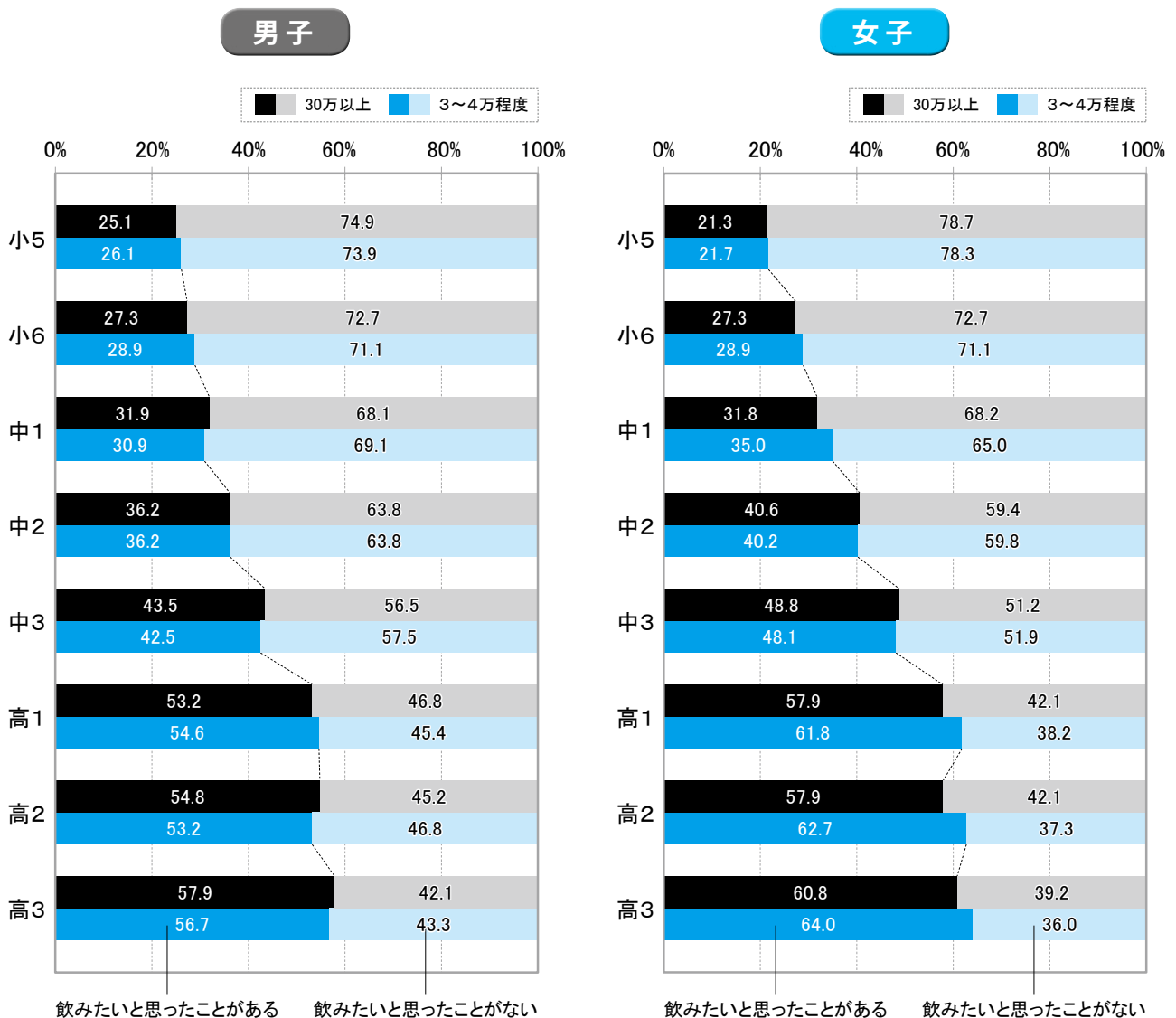
# IV 各質問に対する回答間の関連性

## 1 飲酒への関心との関連性

### (1) 都市規模との関連性

- 児童生徒の飲酒への関心は、都市規模によって差があるかについて情報を得るために、人口「30万人以上の市」と「3万から4万程度の市町村」の児童生徒間で比較した。
- 人口「30万人以上の市」と「3万から4万程度の市町村」の児童生徒間で「酒を飲みたいと思ったことがある」と回答した児童生徒の割合に大きな差が認められなかったが、高等学校女子では、「3万から4万程度の市町村」の生徒の割合が「30万人以上の市」より3～5ポイント程度高かった。

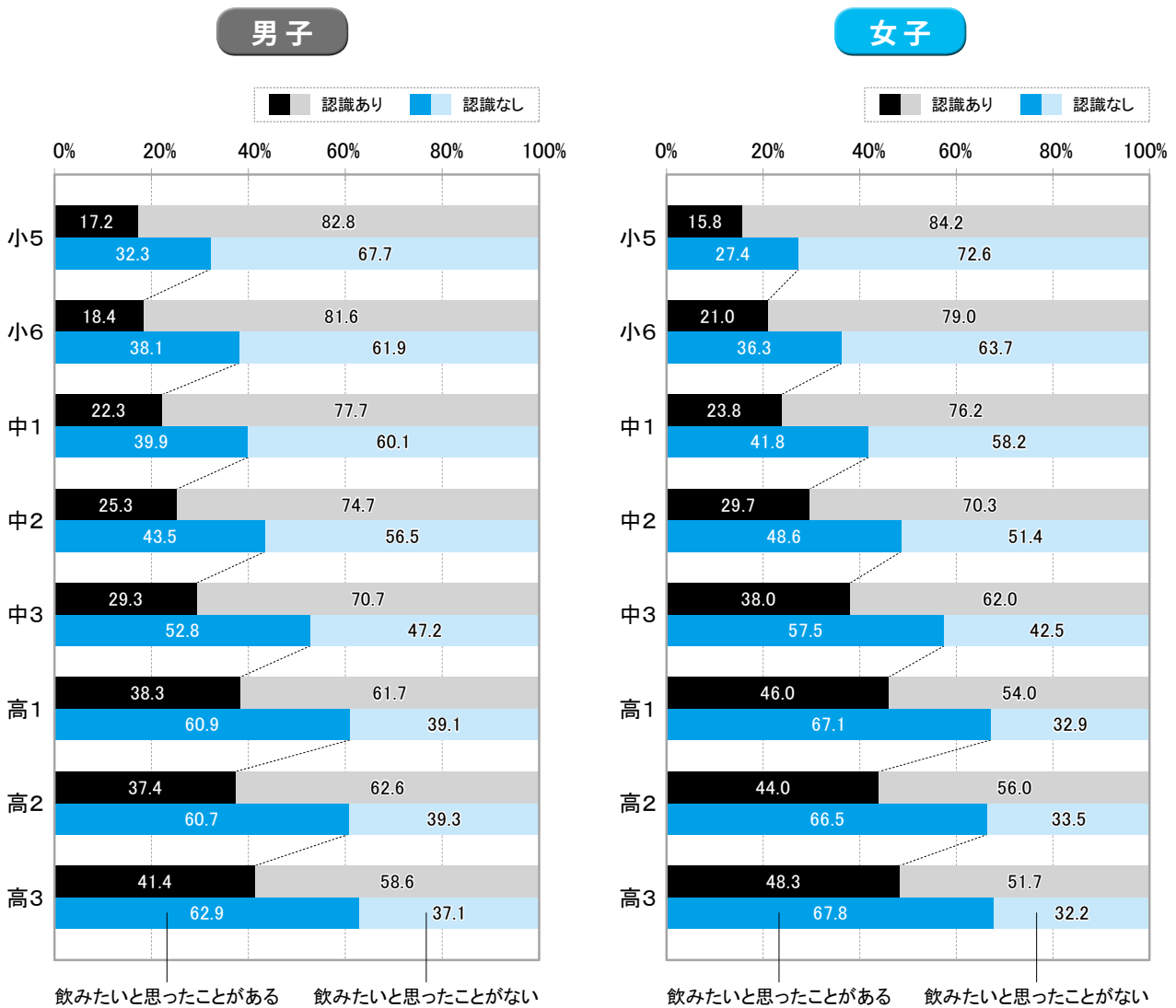
図IV-1-(1) 飲酒への関心と都市規模との関連性



## （2）健康影響への認識との関連性

- 児童生徒の飲酒への関心は、健康影響への認識の違いによって差があるかについて情報を得るために、健康影響への「認識あり」と「認識なし」の児童生徒間で比較した。
- 「酒を飲むと健康に害があると思いますか」の質問に対して「大いに害があると思う」と回答した児童生徒を健康影響への「認識あり」とし、「害がほとんどないと思う」、「多少はあるだろうがたいしたことはないと思う」または「わからない」と回答した児童生徒を健康影響への「認識なし」とした。
- 「飲みたいと思ったことがある」と回答した児童生徒の割合は、男女ともに学校種・学年にかかわらず飲酒による健康影響について認識のある児童生徒と比較して、認識のない児童生徒において高かった。

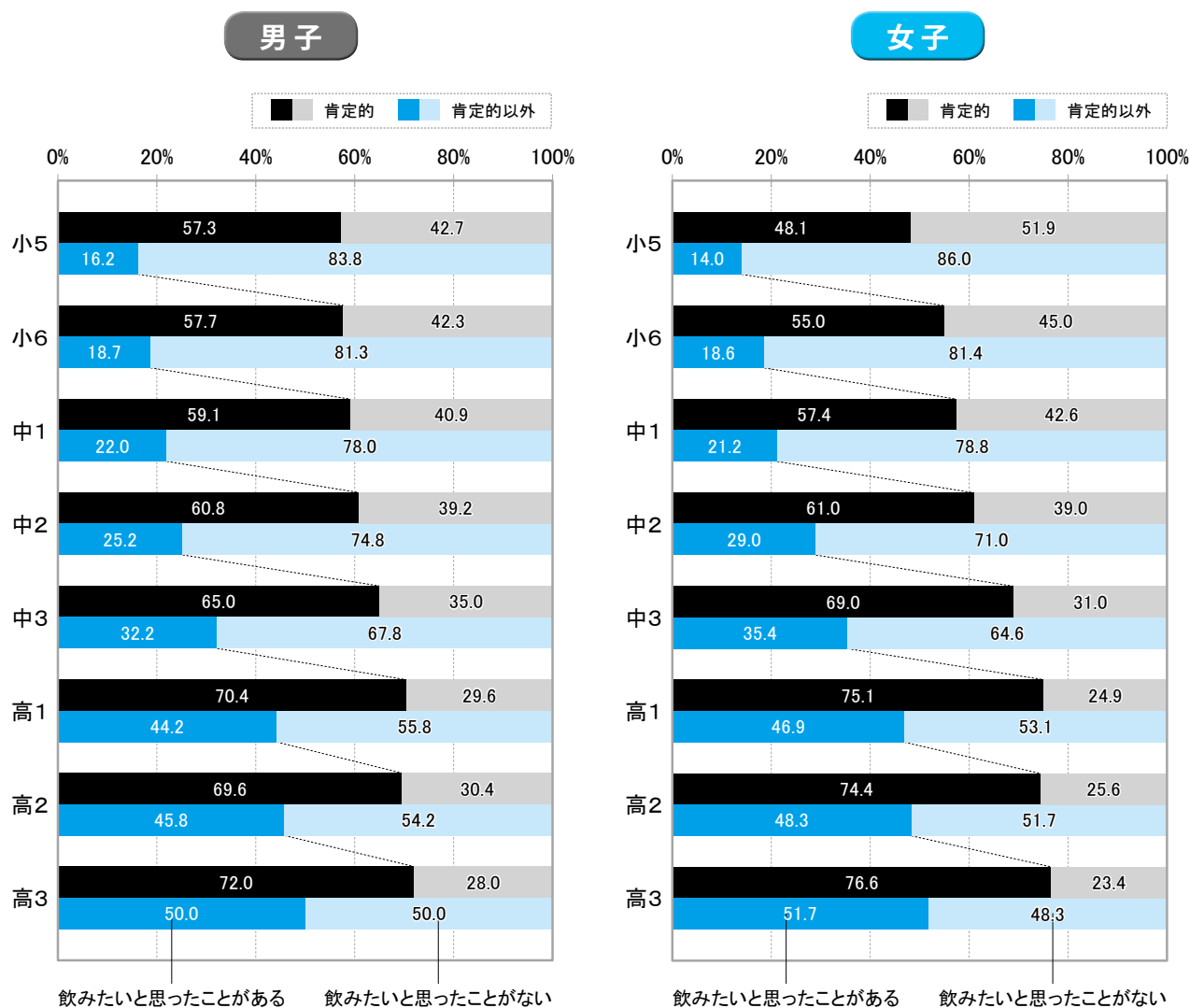
図IV-1-(2) 飲酒への関心と健康影響への認識との関連性



### (3) 酒の宣伝やコマーシャルの印象との関連性

- 児童生徒の飲酒への関心は、酒の宣伝やコマーシャルの印象によって差があるかについて情報を得るために、酒の宣伝やコマーシャルについて「肯定的」、「肯定的以外」に分類し児童生徒間で比較した。
- 「酒の宣伝やコマーシャルをみて、あなたはどう思いますか」の質問に対して「『かっこいい』・おしゃれ」、「さわやか」、「おいしそう」、「楽しい」、「健康的」のいずれか1つにでもそう思うと回答し、かつ「宣伝やコマーシャルをするのはおかしい」、「特に何とも思わない」及び「宣伝やコマーシャルを見たことがない」のいずれにもそう思うと回答していない児童生徒を「肯定的」とし、それらの児童生徒以外を「肯定的以外」とした。
- 「飲みたいと思ったことがある」と回答した児童生徒の割合は、男女ともに学校種・学年にかかわらず酒の宣伝やコマーシャルについて「肯定的以外」の印象をもつ児童生徒と比較して「肯定的」な印象をもつ児童生徒において高かった。

図IV-1-(3) 飲酒への関心と酒の宣伝やコマーシャルの印象との関連性

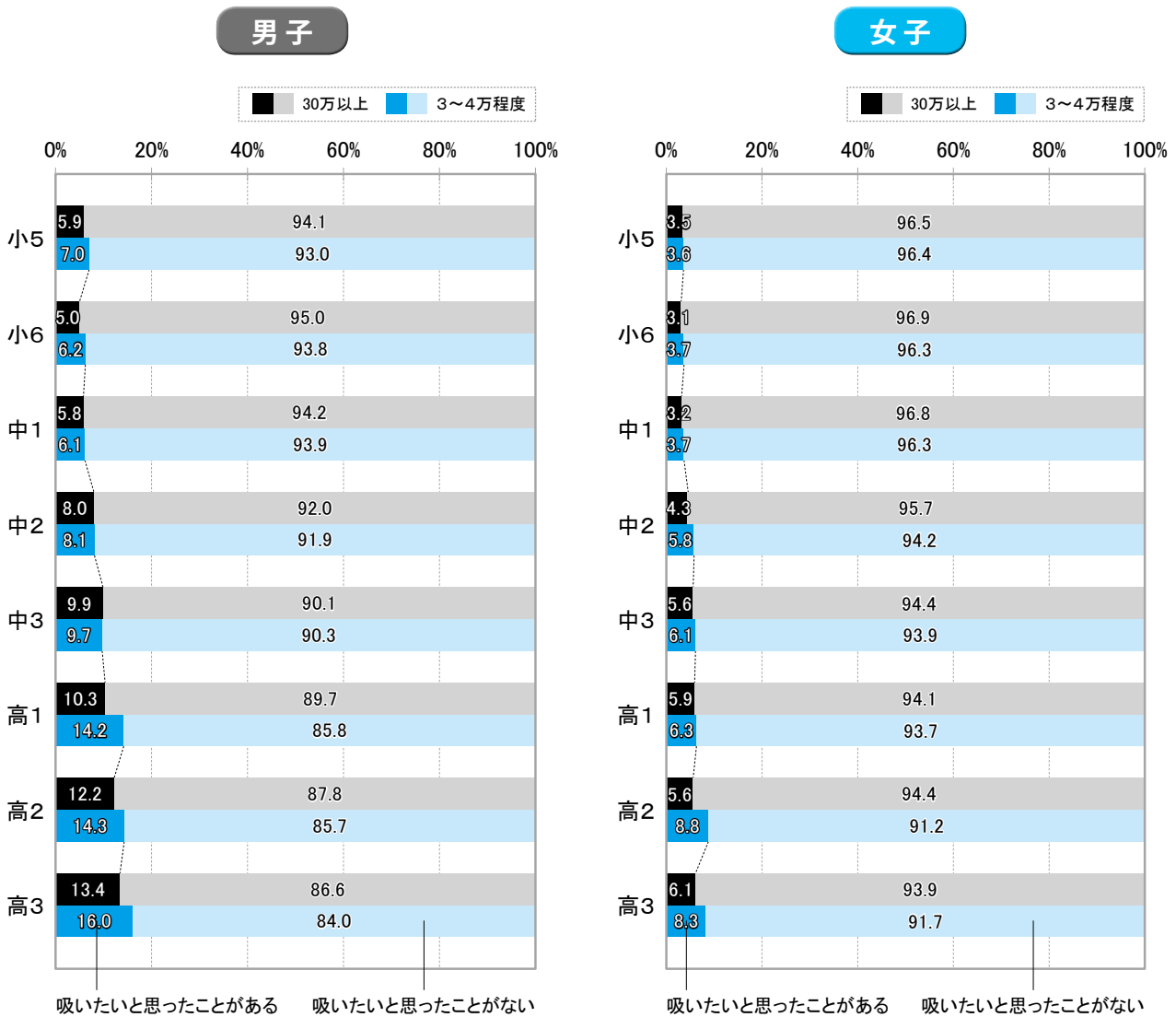


## 2 喫煙への関心との関連性

### (1) 都市規模との関連性

- 児童生徒の喫煙への関心は、都市規模によって差があるかについて情報を得るために、人口「30万人以上の市」と「3万から4万程度の市町村」の児童生徒間で比較した。
- 人口「30万人以上の市」と「3万から4万程度の市町村」の児童生徒間で「たばこを吸いたいと思ったことがある」と回答した児童生徒の割合に大きな差が認められなかったが、高等学校では、男女ともに「3万から4万程度の市町村」の生徒の割合が「30万人以上の市」より2～4ポイント程度高かった。

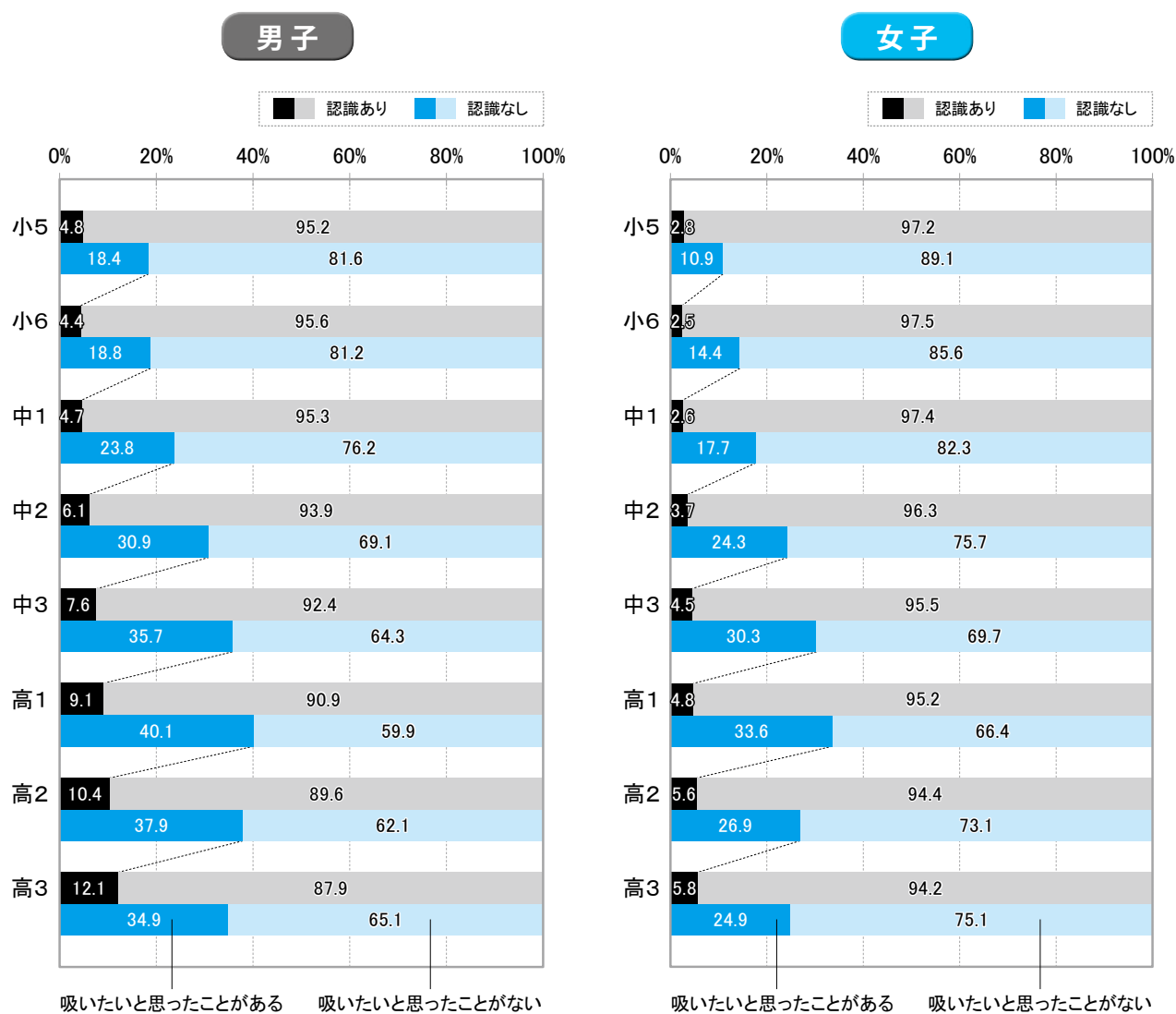
図IV-2-(1) 喫煙への関心と都市規模との関連性



## (2) 健康影響への認識との関連性

- 児童生徒の喫煙への関心は、健康影響への認識の違いによって差があるかについて情報を得るために、健康影響への「認識あり」と「認識なし」の児童生徒間で比較した。
- 「たばこを吸うと健康に害があると思いますか」の質問に対して「大いに害があると思う」と回答した児童生徒を健康影響への「認識あり」とし、「害がほとんどないと思う」、「多少はあるだろうがたいしたことはないと思う」または「わからない」と回答した児童生徒を健康影響への「認識なし」とした。
- 「吸いたいと思ったことがある」と回答した児童生徒の割合は、男女ともに学校種・学年にかかわらず喫煙による健康影響について認識のある児童生徒と比較して、認識のない児童生徒において高かった。

図IV-2-(2) 喫煙への関心と健康影響への認識との関連性



### （3）たばこの宣伝やコマーシャルの印象との関連性

- 児童生徒の喫煙に対する関心は、たばこの宣伝やコマーシャルの印象によって差があるかについて情報を得るために、たばこの宣伝やコマーシャルについて「肯定的」、「肯定的以外」に分類し児童生徒間で比較した。
- 「たばこの宣伝やコマーシャルをみて、あなたはどう思いますか」の質問に対して「『かつこいい』・おしゃれ」、「さわやか」、「おいしそう」、「楽しい」、「健康的」のいずれか1つにでもそう思うと回答し、かつ「宣伝やコマーシャルをするのはおかしい」、「特に何とも思わない」及び「宣伝やコマーシャルを見たことがない」のいずれにもそう思うと回答していない児童生徒を「肯定的」とし、それらの児童生徒以外を「肯定的以外」とした。
- 「吸いたいと思ったことがある」と回答した児童生徒の割合は、男女ともに学校種・学年にかかわらずたばこの宣伝やコマーシャルについて「肯定的以外」の印象をもつ児童生徒と比較して「肯定的」な印象をもつ児童生徒において高かった。

図IV-2-(3) 喫煙への関心とたばこの宣伝やコマーシャルの印象との関連性

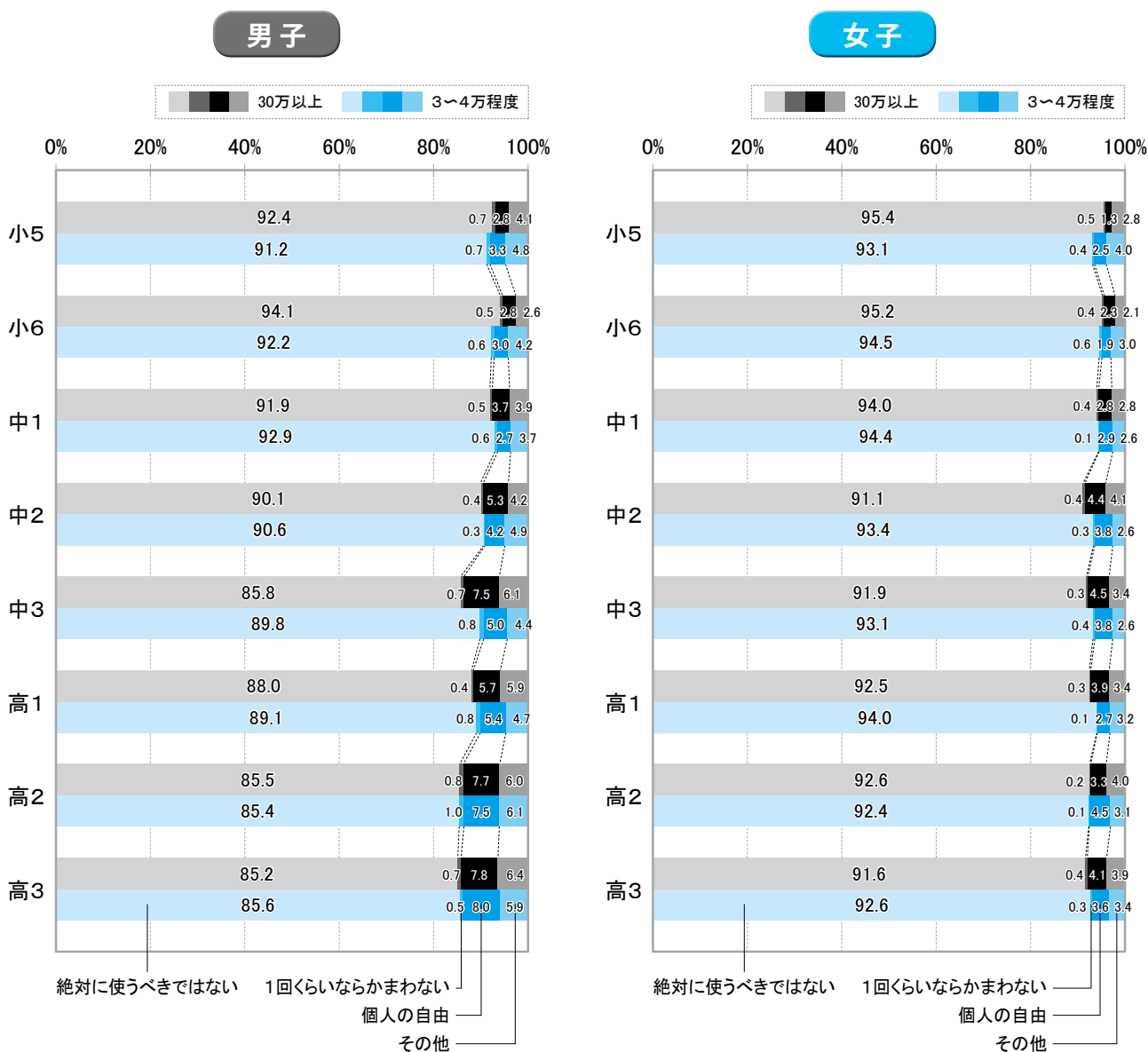


### 3 薬物使用に対する考えとの関連性

#### (1) 都市規模との関連性

- 児童生徒における薬物の使用に対する考えは、都市規模によって差があるかについて情報を得るために、人口「30万人以上の市」と「3万から4万程度の市町村」の児童生徒間で比較した。
- 人口「30万人以上の市」と「3万から4万程度の市町村」の児童生徒間で「どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない」と回答した児童生徒の割合に大きな差が認められなかった。

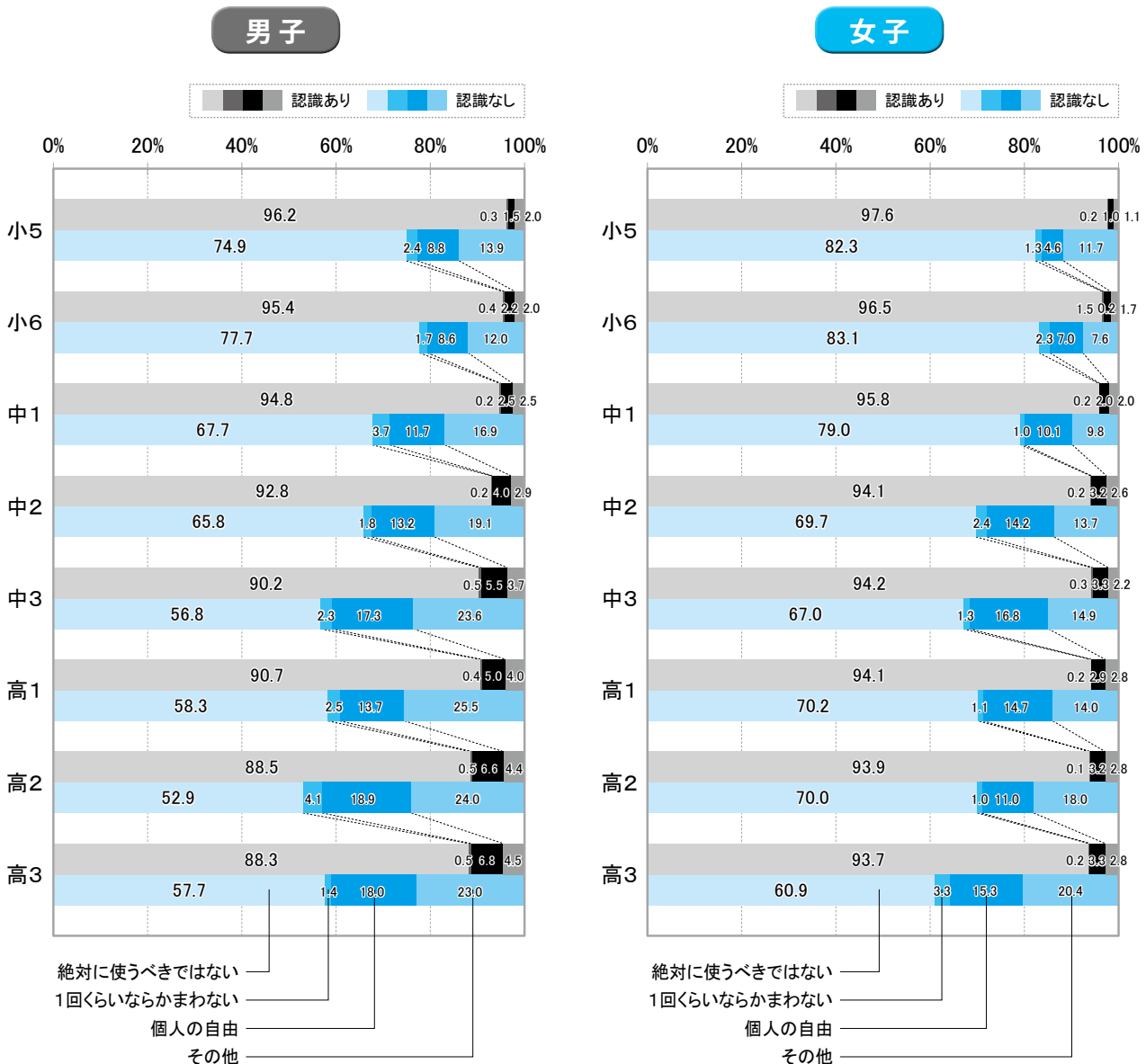
図IV-3-(1) 薬物使用に対する考えと都市規模との関連性



## （2）罰則の認識との関連性

- 児童生徒における薬物の使用に対する考えは、罰則の認識の違いによって差があるかについて情報を得るために、罰則の「認識あり」と「認識なし」の児童生徒間で比較した。
- 薬物使用による健康影響については、「あなたは、覚せい剤などの薬物を使ったり、持っていたりした場合、どうなるとお考えですか」の質問に対して「使ったり、持っていたりしたらすべて罰せられる」と回答した児童生徒を罰則の「認識あり」とし、「1回使うくらいなら、罰せられることはない」、「持っているだけでは罰せられることはない」、「使ったり、持っていたりしても罰せられることはない」または「わからない」と回答した児童生徒を罰則の「認識なし」とした。
- 「どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない」と回答した児童生徒の割合は、男女ともに学校種・学年にかかわらず覚せい剤などの薬物を使ったり、持っていたりした場合の罰則について認識のある児童生徒と比較して、認識のない児童生徒において著しく低かった。

図IV -3-(2) 薬物使用に対する考えと罰則の認識との関連性

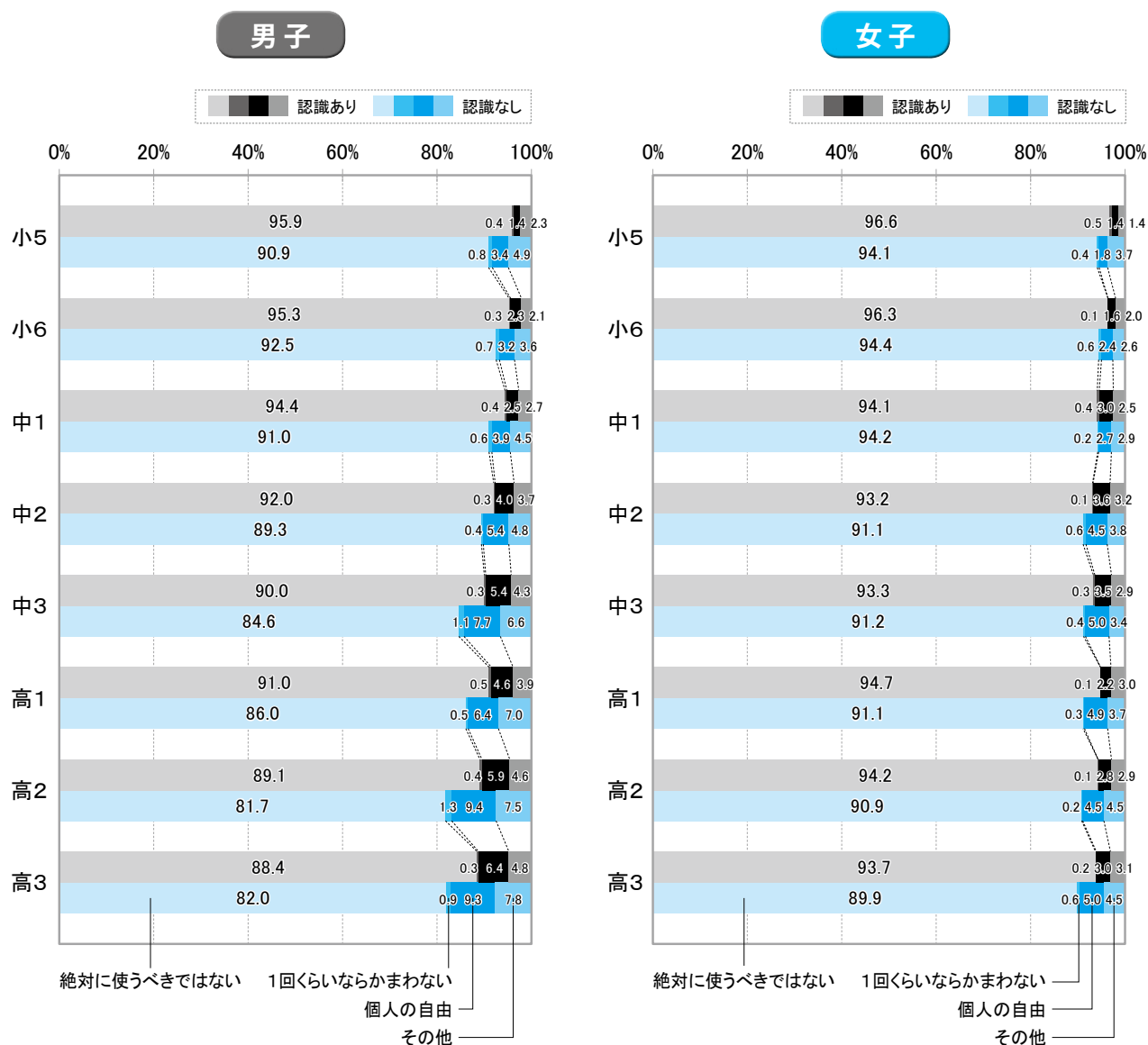




### (3) 健康影響への認識との関連性

- 児童生徒における薬物の使用に対する考えは、健康影響への認識の違いによって差があるかについて情報を得るために、健康影響への「認識あり」と「認識なし」の児童生徒間で比較した。
- 薬物使用による健康影響については、「あなたは、覚せい剤などの薬物を使った場合、心や体に次のような害があることを知っていましたか」の7つ質問すべてについて「知っている」と回答した児童生徒を健康影響への「認識あり」とし、1つでも「知らない」と回答した児童生徒を健康影響への「認識なし」とした。
- 「どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない」と回答した児童生徒の割合は、男女ともに学校種・学年にかかわらず覚せい剤などの薬物を使った場合の健康影響について認識のある児童生徒と比較して、認識のない児童生徒において低かった。

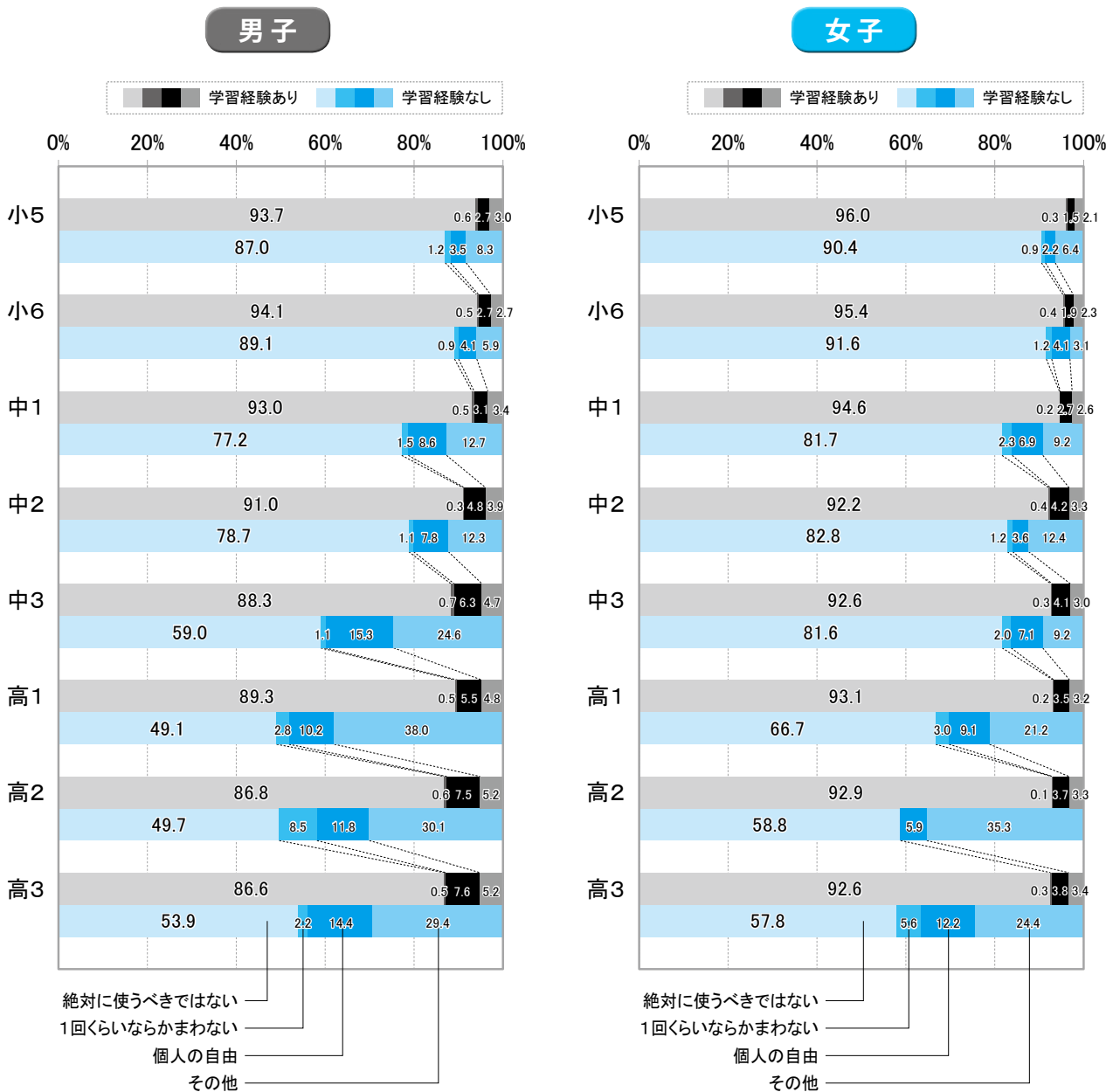
図IV-3-(3) 薬物使用に対する考えと健康影響への認識との関連性



### （4）学習経験との関連性

- 児童生徒における薬物の使用に対する考えは、薬物についての学習経験によって差があるかについて情報を得るために、学習経験「あり」と「なし」の児童生徒間で比較した。
- 「どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない」と回答した児童生徒の割合は、男女ともに学校種・学年にかかわらず薬物についての学習経験のある児童生徒と比較して、学習経験のない児童生徒において低かった。男女ともにその差は、学校種が上がるにつれて大きくなり、特に高等学校で著しかった。

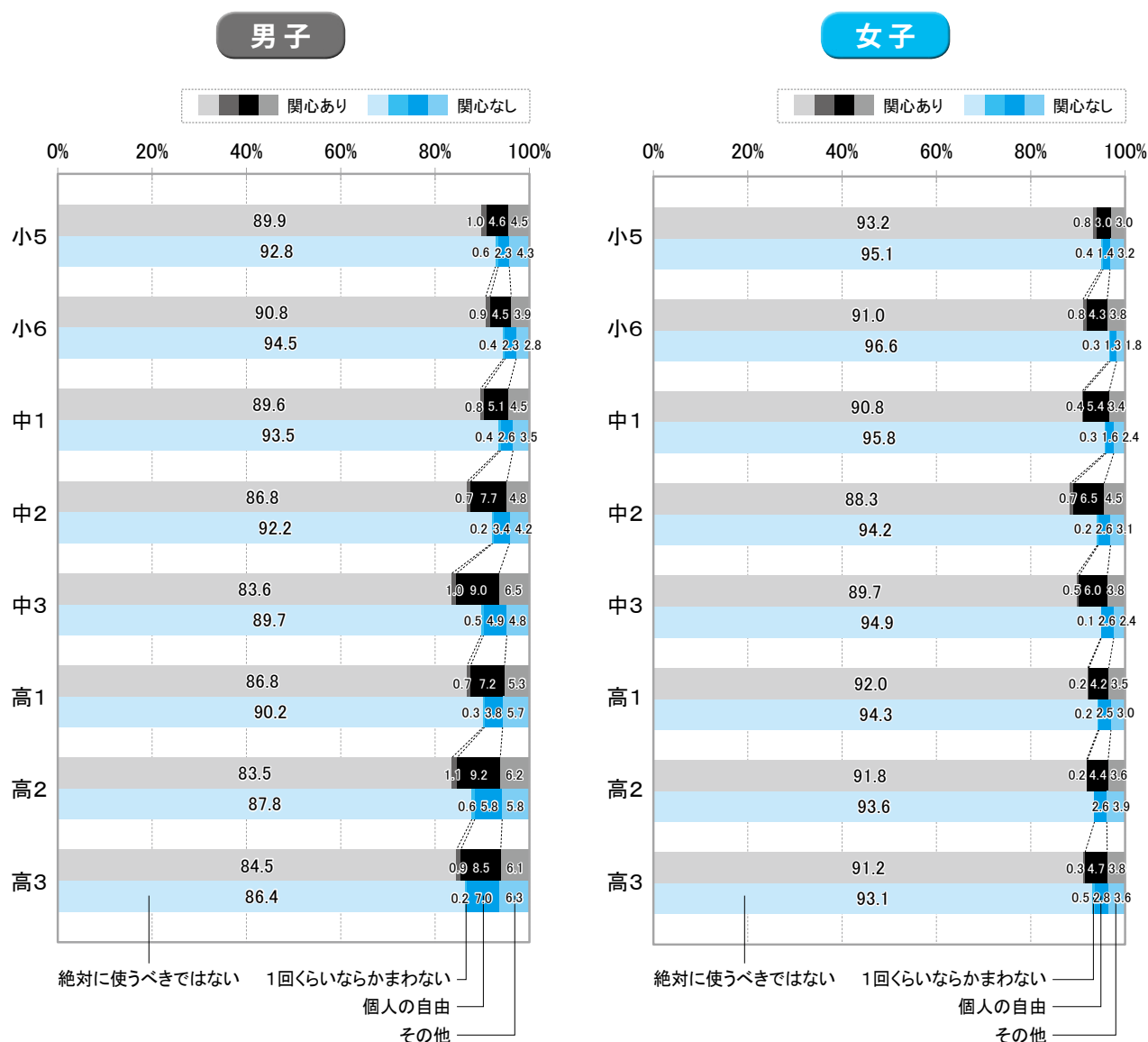
図IV-3-(4) 薬物使用に対する考えと学習経験との関連性



## (5) 飲酒への関心との関連性

- 児童生徒における薬物の使用に対する考えは、飲酒への関心の違いによって差があるかについて情報を得るために、飲酒への「関心あり」と「関心なし」の児童生徒間で比較した。
- 「どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない」と回答した児童生徒の割合は、男女ともに学校種・学年にかかわらず「酒を飲みたいと思ったことがない」と回答した児童生徒と比較して、「飲みたいと思ったことがある」と回答した児童生徒において低かった。

図IV-3-(5) 薬物使用に対する考えと飲酒への関心との関連性



## （6）喫煙への関心との関連性

- 児童生徒における薬物の使用に対する考えは、喫煙への関心の違いによって差があるかについて情報を得るために、喫煙への「関心あり」と「関心なし」の児童生徒間で比較した。
- 「どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない」と回答した児童生徒の割合は、男女ともに学校種・学年にかかわらず「たばこを吸いたいと思ったことがない」と回答した児童生徒と比較して、「吸いたいと思ったことがある」と回答した児童生徒において低かった。中学校女子では、その差が大きい傾向が認められ、特に、「吸いたいと思ったことがある」と回答した児童生徒において「個人の自由」と回答した生徒の割合が高かった。

図IV-3-(6) 薬物使用に対する考えと喫煙への関心との関連性

